

米国ワシントン D.C. での留学生活

MedStar Washington Hospital Center

尾崎 雄一

(メッドスター健康研究機関)

2017年7月から米国のワシントン D.C. にある MedStar Washington Hospital Center に留学させていただいております。ワシントン D.C. はアメリカ東海岸にある、言わずと知れた米国の首都であります。D.C. 内にはホワイトハウスをはじめ、多くの有名な建造物や記念碑などがあるだけではなく、毎年春には日本から贈られた桜が満開となり、日本人としての誇りを感じられる都市です。

私が住んでいるのはワシントン D.C. から北西に位置する、メリーランド州にある North Bethesda という街です。近くには NIH (National Institute of Health) があり、研究で留学している日本人や日本大使館、日本の企業で働く日本人が多く住んでおり、治安もかなり良いため、とても住みやすい環境の街です。

研究室のある Washington Hospital Center までは毎日約40分程度かけて車で通勤しています。当施設では一般的なラボと少し違い Interventional Cardiology の部門に臨床を中心に行う Research Fellow (現在7人) とリサーチのみを行う Clinical Fellow (現在2人) が在籍しております。国籍はブラジル、イギリス、イタリア、中国、インドなど様々です。

コアラボでは循環器領域の世界中で行われている他施設共同研究のデータが集められ、Research Associate 達が日々解析を行っています。我々、Research Fellow は主にそのデータを使ってサブ解析を行ったり、新たな冠動脈ステントやバルーンなどを用いて動物実験を行ったりしています。ボスの Dr. Waksman は今でもカテーテル治療や緊急カテーテルのオンコールもされているとても忙しい先生です。そんな多忙の中でも毎週 Fellow 全員を集めて興味深い症例の film review を行い、research meeting にも必ず出席されます。Fellow にとって research meeting は自分のプロジェクトの進行具合の報告や新しいプロジェクトをプレゼンする為の重要なミーティングです。ここでボスの OK が出なければ新たなプロジェクトは始められません。留学して初めの数ヶ月はデータを扱わせてもらえない事も多く、信頼を得るまでは思った様にプロジェクトが始められませんでした。それを乗り越え、ボスからの信頼を勝ち取ってからは想像していた以上に色々な仕事を与えられ、自分のやりたい研究やアイデアをプロジェクトに繋げる事ができる様になりました。

プロジェクトが始まった後は、データ解析、学会報告や論文の投稿をすれば、次のプロジ

エクトを考えると行った流れです。プロジェクトの目処がつくと『次のプロジェクトは?』とボスから言われます。日本では同時にいくつものプロジェクトを行いながら、同時にいくつもの論文を投稿するなんて言う経験をしたことがなかったので、とても忙しく初めは大変でしたが、今ではもうすっかり慣れてしまっています。その他に新たなデバイスの合併症などを評価する他施設共同研究のミーティングに参加することもあり、最先端の施設でなければ経験できない事も多くあります。

渡米してもう直ぐ2年が経過しますが、海外生活をすると様々な場面で日本/日本人と比較してしまいます。違った文化、宗教、考え方に触れ、今まで知らなかったこと、当たり前だと思っていたこと、気付いていなかったことに初めて気付かされます。慣れない異国の地で、大変な事もありますが、留学は自分にとって医師/研究者としてだけでなく、人としての視野を広げてくれる大きな経験であると確信しています。この留学で得られた経験と人脈を大切に、今後も世界に発信できる様な研究を続けていけるよう努力したいと思います。

最後になりますが、この様な貴重な留学経験の機会を与えてくださった和歌山県立医科大学循環器内科の赤阪隆史教授および医局員の皆さま方、またこの留学に際してご支援を賜りました上原記念生命科学財団に心より感謝申し上げます。

(2019. 4. 23受領)